

事項六 極東露領ニ於ケル漁業問題

三二五 一月五日

在浦潮松村総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

漁区貸下特別委員会決定事項ニ関スル新聞報
道ニ付報告ノ件

第四号

(一月六日接受)

当地御用新聞 Krasnoznamiya ノ報道ニ依レバ露革命委員
会代表者及ビ漁業長官其他ノ委員ヨリ成ル漁区貸下特別委
員会ハ本年度「カムチャツカ」「オコック」方面ニ於ケル
漁区ノ貸下ヲ封書ニ依ル入札トナシ漁区代金ハ一ヶ年分ヲ
徴収スルモ布度税及ビ借地税ヲ免除シ入札期日ヲ千九百二
十三年二月一日トナスコトニ決定シタル由ニシテ右決定事
項ハ露革命委員会ノ認可ヲ要スルモノナル由本件ニ関シ漁
業長官ニ確カメタル上再電スヘキモ取敢ヘズ右電報ス

三二六 一月六日

農商務省水産局長ヨリ
永井通商局長宛

漁区開設願書ヲ露国側ニ於テ受理セザルハ不
当ナルニヨリ嚴重抗議方要請ノ件

十二局第一号

大正十二年一月六日

(一月八日接受)

外務省通商局長殿

農商務省水産局長(印)

客年十二月二十八日付通監機密合第九二八号ヲ以テ御送付
相成候大正十二年度露領沿岸漁業ニ関スル件了成就テハ本
件松村総領事電信中露国側申出ノ漁区開設願書ノ不受理ハ
日露漁業協約付屬議定書第四條中ノ規定ニ反シ又從來開設
シタル漁区全般ヲ競売ニ付スルコトハ大正八、九年度競売
ニ依ル既得權ヲ全部無効トナス人民經濟「ソヴィエツト」
代表者回答ノ趣ト関連シテ現在借区期間中ニ属スル本邦人
ノ漁区全部ノ借区權ヲ無視セムトスルモノニシテ不法極マ
ルモノト認メラレ候間漁業長官申出ノ如キ當業者ニ對スル
伝達ハ勿論帝國政府トシテハ右ノ如キ露国側ノ專横ナル決
定ハ斷シテ承認難相成次第ト認メラレ候条右ノ趣至急在浦
帝國總領事ヲシテ露国当局ニ對シ嚴重抗議セシメラレ候様
致度此段及照会候也

追テ本件松村総領事電信中ノ滞納漁区代納入期日ニ関
シテハ本邦當業者代表ニ於テ近ク渡浦ノ上露国当局ニ
為スヘキ交渉事項ノ一トシテ曩ニ御協議致置候次第モ
有之候間此儀御含ノ上尚期日ニ付商議アル旨是亦露国
側ニ適當申入相成候様致度併セテ及照会候也

註一 日本外交文書大正十一年第一冊一六九文書ノ註一参照

2 日露漁業協約付屬議定書第四條ノ規定左ノ通

「日本国臣民ハ漁業協約第一条ニ特定シタル各方面何レノ
所ニ於テモ漁区ノ貸下ヲ請願スルトキハ競売ノ方法ヲ以テ
其ノ貸下ヲ受クルコトヲ得ヘシ但シ前記各方面ニ於ケル魚
類ノ養殖及保護、此等産業ノ取締其ノ他漁業ニ関スル現行
又ハ將來ノ法律、命令及規則ヲ遵守スルヲ要ス尤日本国臣
民ハ前記法律、命令及規則カ前記各方面ニ於テ漁区ノ貸下
ヲ受ケタル露西亞国臣民ニ適用アルニアラザレバ之ニ服從
スルコトヲ要セザルハ言フ俟タザルモノトス」

三二七 一月六日

在浦潮松村総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

漁区貸下特別委員会ノ決定ニ関シ露革委員会
代表者談話ノ件

(欠号)

(一月六日接受)

往電第四号ニ関シ

六 極東露領ニ於ケル漁業問題 三二七 三三八 三三九

露革委員会代表者「ベリスキー」ニ確メタル処右ハ日露漁
業条約ニ於テ除外セル漁区ニテ条約ニ依ル漁区ニ関シテハ
未タ莫斯科ヨリ何等指令ナキ旨ヲ語レリ

三二八 一月八日

永井通商局長ヨリ
農商務省水産局長露領水産組合組長各宛

大正十二年度露領沿岸漁業ニ関スル露国側ノ

態度通報ノ件

通監普通合第二一號

大正十二年度露領沿岸漁業ニ関スル件

本件ニ関シ在浦潮松村総領事ヨリ別紙甲号写ノ通り電報有
之候処更ニ乙号写ノ通り追電有之候条御参考迄右茲ニ及御
送付候也

註 別紙甲号及乙号ヲ省略ス右甲号ハ前掲一月五日松村総領事來

電第四号ト同文ニシテ乙号ハ右第四号ニ関スル一月六日付追
電ナリ

三二九 一月十三日

永井通商局長ヨリ
酒井露領水産組合組長宛

本年度露領沿岸漁業ニ関シ在浦潮松村総領事
ヨリ露国当局ニ申入レ及ビ先方ノ答弁振り通
報ノ件

通監普通第四四号

本年度露領沿岸漁業ニ関スル件

旧臘十二月在浦潮松村総領事ヨリノ電報ニ抛レハ漁業長官ハ本年度ノ競売ハ漁区開設希望願書ノ受理ヲ省キ従来開設セル漁区全般ヲ競売ニ付スルコトニ決定セル旨述ヘタル由ノ処右ハ一面時機ノ関係ニ基ク便宜処置タルヲ失ハスト雖他面新規漁区ノ開設ヲ認メサル結果トナルノミナラス此点ニ付テハ漁業協約付属議定書第四条ノ規定モアルコト故当業者ヨリ漁区開設ノ願出アル時ハ露国側ニ於テ之ヲ受理シ場合ニ依リテハ追加漁区表トシテ發布セシメ度ニ付露国当局ヘ交渉方本月六日同総領事ヘ訓令相成候処同総領事ヨリ若シ漁業者ニシテ本年漁区ノ新設ヲ希望スルモノアラハ願書ヲ受理スルニ異議ナク其ノ期限及競売期日等ニ関シテハ当業者ト商議ノ上出来得ル限り便宜ノ手段ヲ講スル旨回答ニ接シタル趣回電アリ

次ニ同総領事ノ電報ニ抛レハ露国当局ハ昨年「メ」政權施行競売並ニ大正九年及夫レ以前ノ競売ノ効力ハ共ニ之ヲ認メザル旨述ヘタル由ナル処右ノ内後者ハ言フ迄モ無ク漁業協約ノ規定ニ基ツキ正式ニ行ハレタル競売ニ依リ當時ノ政

(左記)

宛、露領水産組合酒井組長

発、橋口

本日「ペリミノア」氏ヲ通シ全露食糧省次官「アンドフアピフ」氏ニ本年度漁業ニ対スル意見ヲ聞キタルニ次ノ通確答セリ

「日露漁業協約ノ存在ヲ認メズ日露間政治的関係ヲ結ブニ至ラザル間ハ組合トノ契約ヲナスコト能ハズ今年漁業ハ一般外国人ノ参加ヲ許シ貸下期間ヲ一ケ年トス但シ期間中ノモノハ此際契約ヲ更新シ本年ニ限り経営ヲ許スモ借区料換算率ハ当局ニ於テ協議シ貸下グベキ漁区及規則ハ二月十五日新聞ニテ発表シ競売ハ三月十五日封書入札ニ依テ施行官庁指定価格ハ発表セズ残留財産ニ対スル保証金供託ハ所有者指定銀行ニアラズシテ極東銀行トシ価格全部委託トス当方要求最低価格ニ関スル件ハ採用セズ保証金他漁区ヘ転用ヲ禁スルノ件ハ考慮中契約不締結ノ場合第三者ニ借区セシムルノ件ハ詮議スヘシ大正九年競落漁区ニ対スル借区料引下ノ件ハ詮議ノ余地ナシ」

上記露当局ノ意見ニ徴スルモ問題ハ此上交渉ノ余地ナシト

樞ト契約ヲ締結シ保証金ヲモ納入シ居レル等何レノ点ヨリ見ルモ合法ナル既得權ト認ムヘキモノナルニ抛リ右ヲモ無効トナスハ理由ナキモノト認メラルルニ付此点ニ関シ交渉方同総領事ニ訓令相成居候処今般同総領事ヨリ従来ノ契約ハ之ヲ破棄スルモ之ヲ更新シテ事実上ノ權利ヲ認ムルコトトナル様努力スル旨露国当局ニ於テ答ヘタル趣ニ有之尚又滞納借区料ニ付テハ我方ニ於テハ当業者ヲシテ証憑書類ヲ提出シ露国側ト共同清算ノ上遅滞ナク納付セシメ度意向ナル旨ヲ以テ同総領事ヨリ露国当局ニ懇談セシメタル処右ニ對シ露国当局ハ何等異議ナキ旨ヲ答ヘタル趣同総領事ヨリ電報ノ次第有之候ニ付右為御参考申進候也

三三〇 二月九日 在浦潮日進艦長ヨリ
海軍省副官宛(電報)

本年度ノ露国側漁業方針ニ関スル全露食糧省次官ノ意見ヲ水産組合及ビ三菱商事ニ取次ガレ度旨橋口ヨリ依頼ノ件

日進特機密第二七八号 (二月十日接受)

左記電水産組合及三菱商事会社ニ取次カレ度
本電ニ依リ漁業ニ関スル最近状況御承知アリ度

思ハル貴地ニ於テ直接「ヨッフエ」ト交渉ノ上本年丈臨機ノ処置ヲ以テ経営継続シ得ル様努力ヲ望ム

註 橋口トハ浦潮ニ出張中ノ漁業家代表橋口九十馬ノコトナリ

三三一 四月九日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛

元メルクーロフ政權外交部長代理ノ談話報告

ノ件

- 付記一 四月十三日付露領水産組合ヨリ外務省宛書信
外秘乙第一七八号
露領漁業權ノ件
二 七月二十日付露領水産組合ヨリ外務省宛書信
外秘乙第三五七号
未納漁区料問題ノ件
三 大正十三年二月二十八日付露領水産組合ヨリ
外務省宛書信外秘乙第四三三号
組合員浦潮出張ノ件

公第三一二号 (四月十九日接受)

大正十二年四月九日

在哈爾濱

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

元「メ」政權外交部長代理ブライコフスキー氏ノ

談話ニ関シ報告ノ件

元「メルクルーフ」政權外交部長代理「プライコフスキー」(帝政時代在哈爾濱露國總領事館書記生)ハ客年浦潮避難以來引続キ当地日本ホテル「北満ホテル」ニ宿泊中ニ有之候処四月八日偶然島田副領事ト会合ノ際同人ハ左ノ通り語リタル由ニ有之候

聞ク所ニ抛レバ日本漁業家ハ今般在浦潮赤派官憲ト漁業問題ニ付交渉ノ結果先年来日本政府ノ手許ニ保管セラレ居レル多額ノ供託金ヲ赤派官憲ニ交付スルコトナリタル由ノ処斯ノ如キハ誠ニ不都合千万ノ次第ニシテ何故日本政府ハ吾等政權即チ正当露國政權が存在シ居タル時代ニ吾等ニ対シテハ前記供託金ヲ渡サズ今日ニナリテ逆賊タル猶太人政權ニ之ヲ交付セラルルカ誠ニ其ノ意ヲ得ザル次第ナリ之等ノ行為ハ將來生ズベキ正当露國政權ハ勿論之ヲ承認セザルベシ云云

右御参考迄ニ報告申進候 敬具

(付記一)

四月十三日付露領水産組合ヨリ外務省宛書信外秘乙第一七八号
露領漁業權ニ関スル件

義親等ヲ浦塩ニ派シ極東革命委員會會長「ベレスキー」等ト交渉セシメタルモ何等決スル所ナカリシカ先般田中九祐厚橋口九十馬ハ我漁業家ヲ代表シテ浦塩ニ赴キ同地駐在ノ渡辺總領事代理ト共ニ極東漁獵庁長官「ポリソフ」ト折衝中ナリシガ一ケ年百三十万円ノ租借料ニテ極要ノ漁区二百六十八ヶ所ノ租借權ヲ得タルヲ以テ本月六日以来關係漁業者等ハ連日赤坂溜池ナル露領水産組合ニ集会、租借料ノ割当ニ就テ協議シ居タルガ昨十一日ニ至リ漸ク決定ヲ見ルニ至レリ而シテ浦塩ニ赴キ居タル漁業家代表橋口九十馬ハ本件交渉経過報告ノ為目下帰朝ノ途ニアリ明日頃帰着ノ予定ナリト云フ

追テ大正十年同十一年ノ二ケ年ニ亘ル漁区租借料約百四、五十万円ハ我政府ノ命ニ依リテ露領水産組合ニ於テ之ヲ保管シ居レルガ昨年中浦塩政府代表者トシテ「グリゴリエフ」ハ弁護士岩崎勲ニ依頼シ其引渡方ヲ交渉セルモ何等決スル所ナクシテ今日ニ至リシガ勞農政府ニ於テモ右租借料ノ引渡方ヲ要求セル由ナルモ本件ニ就テハ未ダ何等ノ決定ヲ見ズト云フ

(付記二)

六 極東露領ニ於ケル漁業問題 三三一

外秘乙第一七八号

大正十二年四月十三日

露領ニ於ケル漁業權問題ニ関スル件

從來露領沿海州及勘察加方面ニ於ケル邦人經營ノ漁区ハ三百六十余ヶ所ナリシガ昨年浦潮政府倒壊後之等各地方モ亦勞農政府ノ治下ニ歸シタル結果勞農政府極東漁獵庁長官「ポリソフ」ハ極東ガ勞農政權下ニ入レル以前ニ於テ締結セラレタル漁獵区租借契約ハ総テ無効トスルコト及一千九百二十三、四年ニ於テ租借期間満了ノ漁区六十四ヶ所ノ日本借区者及六ヶ所ノ露國借区者ハ漁獵庁ニ出願契約ヲ更新スルコトヲ勸告スル旨ノ布令ヲ発シタルガ先是露領ニ於ケル邦人ノ漁業權ハポーツマス條約ニ依リ獲得明治四十一年中日露漁業協約締結セラレ同協約ハ十二年毎ニ改訂スルコトナリ居リテ大正八年ヲ以テ満了トナリタルモノナルモ露國擾亂ノ結果今日迄改訂ノ機ナクシテ經過シタルヨリ昨年一昨年ノ如キハ自由出漁ノ已ムナキニ至レルガ本年ハ露國官憲ノ諒解ノ下ニ出漁スルヲ便宜ナリトシ根本的ノ漁業協約ハ他日日露會商ノ時ニ譲リ本年ノミノ暫定協定ヲ為ス為、我露領水産組合ハ本年二月中副組長中村精太郎秋本

七月二十日付露領水産組合ヨリ外務省宛書信外秘乙第三五七号
未納漁区料問題ニ関スル件

外秘乙第三五七号

大正十二年七月二十日

未納漁区料問題ニ関シ漁業代表渡浦ノ件

本邦漁業家代表トシテ田中九祐厚橋口九十馬等ハ昨年未浦塩ニ赴キ漁業問題ニ関シ露國側ト交渉シタル際露國側ハ明治四十一年以來大正九年迄ノ我邦漁業家ノ漁区借区料未納金約四百万円ニ上リ居レリトテ之ガ支払ヲ要求シタルニ對シ渡辺領事ハ調査ノ上果シテ未納ノ分アレバ支払フヘシ尙之カ回答ハ本年八月十五日迄ニ為スヘシト答ヘ置キタルガ回答期切迫セル為本月十四日ヨリ同十九日迄赤坂溜池露領水産組合ニ同組長酒井忠亮、副組長中村精一、橋口九十馬、田中九祐厚、井出智、佐々木平次郎、阪本作平、片桐虎吉、藤木次郎平、佐藤伝二、塩谷久太郎等會合協議シタルガ露國側ノ調査ハ頗ル杜撰ニシテ既ニ支払済ミノ借区料ヲモ未納トシテ計上シ居ル有様ナレバ双方ヨリ委員ヲ選定之ヲ調査スルノ要アリトシ我漁業家側ノ代表トシテ田中九祐厚、井出智、佐々木平次郎ノ三名渡浦シ露國側委員ト交渉

スルコトニ決シ右三名ハ本月二十七日当地発二十八日敦賀出帆ノ鳳山丸ニテ出帆ノ予定ナリ

申(通) 報先

内、外、農相、警保、欧米、局長、情報部長

(付記三)

大正十三年二月二十八日付露領水産組合ヨリ外務省宛書信外秘乙第四三号
組合員ノ浦潮出張ニ関スル件

外秘乙第四三号

大正十三年二月二十八日

露領水産組合員渡浦ニ関スル件

露領水産組合ノ浦塩漁業問題対策ニ関シ本月十六日外秘乙第三五号既報ノ処役員間ニ於テハ此際至急解決スルヲ有利ト為シ本月二十三日審議員会ヲ開キ協議ノ結果政府ノ方針ニ一任シ目下滞浦中ノ山口領事交渉委員ト為リ組合ヨリハ昨年同様田中丸祐厚、佐々木平次郎、井出智ノ三名ヲ顧問トシテ其折衝ニ参加セシムルコトヲ決議シ三名ハ三月三日敦賀出帆ノ鳳山丸ニテ渡浦ノ予定ナルガ組合側ニ於テハ今回ノ交渉経過如何ニ依リテハ結局昨年来露国側委員「アンドリアノフ」トノ交渉懸案タル未納漁区租借料二百七十五

万円ヲ承認スヘキ意向ナルヲ以テ露国側ニ於ケル方針ニ変化ナキ限り昨年ト同一条件ノ下ニ契約シ得ルモノト観測シ居レリ

追テ既報組合総会ハ来ル三月十二日ニ決定セリ

申(通) 報先

内、外、農相、警保、欧米、亜細亞局長、情報部長、指定庁府県長官、憲兵司令官、同隊長、

三三二 十一月一日 在浦潮渡辺総領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

日本漁業者ノ未納金額支払ヒノ方法ニ関シ露

国側ヨリ提案アリタルニヨリ右容認方詮議ア

リタキ旨稟請ノ件

第七八九号

(十一月三日接受)

山口第四二号

貴電第五一六号ニ関シ

本一日午後七時田中丸ハ「ア」ト会见シ先ツ我方ノ提案ニ対スル回答ヲ見テ意外ノ思ヲ為シタル旨ヲ述ヘ右ハ是迄双方ノ為シ来レル努力ノ結果ヲ水泡ニ帰セシムルモノナルコトヲ甚タ遺憾トスルモノナルカ何故我方ノ提案ニ対シ対案

(イ) 百万円ハ既ニ支払済ト看做ス

(ロ) 五十五万円ハ日本漁業者ニ於テ本年十一月之ヲ納付ス

(ハ) 百二十万円ハ三年間毎年四十万円宛納付ス但日本漁業

者ハ百二十万円ノ金額ヲ約束手形ヲ以テ保証ス

三、露国側ハ黒竜江方面ノ利用ニ対スル計算ヲ本委員会ニ於テ審議セズ之ヲ日露代表者間ノ一般の交渉ニ移スコトニ同意ス

四、露国側ハ若干技術の変更ヲ除ク外本年度適用セル条件

ニ於テ日本漁業者ヲ競売ニ参加セシムルコトニ同意ス

右第四項ニハ三箇年ノ長期借区ナル文句無カリシニ依リ

「ア」ノ秘書ニ注意シタル処「ア」ハ書面ヲ以テ田中丸代

表ニ宛テ第四項ノ効力ハ三箇年ノ期間ニ亘ルモノト解シタ

ル旨説明シ同時ニ将来ノ「エクスプロイテーション」ニ関

スル問題ハ未納金問題ノ調節後ニ審議セラルヘキ旨指摘シ

来レリ就テハ右露国側対案ハ先方カ三ヶ年ノ期間ニ亘リ本

年度適用条件ニ依ルコトヲ約スル以上ハ大体ニ於テ之ヲ容

認シ巨細ノ事項ハ双方ニ於テ熟議ヲ遂クルコトトシ差支ナ

キ様思考セラルル次第ニ有之田中丸ノ立場ヲモ諒トセラレ

右容認方御詮議相成度本月三日「ア」ノ出発迄ニ間ニ合フ

ヲ提示スルノ途ニ出テサリシヤト問ヒタル処「ア」ハ我方

提案ヲ見テ日本政府ハ是迄ノ交渉ヲ打切り査定問題ヲ日露

会議ニ移サントスル底意アルモノト直感シ斯ル回答ヲ為シ

タルモノナリト述ヘタルニ付田中丸ハ数回ノ私的会談ノ折

「ア」ノ打明ケタル趣旨ヲ文書ヲ以テ対案トシテ提示スル

ナラハ日本政府及組合ニ対シ極力運動シ其ノ成功ヲ確信ス

ル旨ヲ言明シタル処「ア」ハ然ラハ直ニ文書ニ認メ送付ス

ヘキ旨ヲ約シ尤モ右ハ露国側ノ最後ノ提案ナリト述ヘタル

趣ニテ其ノ後同人秘書ヲ介シ左記ノ趣旨ノ対案ヲ本官ニ手

交セリ

『正当ニシテ且双方ノ容認シ得ル様日本漁業者ノ未納金問題ヲ調節シ以テ一般漁業問題ノ調節ノ端緒タラシメムコトヲ切望シ且日本ノ遭遇セル災厄ヲ考量シテ左ノ提案ヲ為スノ光榮ヲ有ス

一、露国側ハ一九二一年及一九二二年間旧協約水域ノ利用

(「エクスプロイテーション」)ニ対シ二百七十五万円ヲ

受領スルコトニ同意ス

二、露側ハ第一項ニ掲グル金額ノ支払ヲ左ノ手続ニ依リ三

年間延納スルコトニ同意ス

様至急何分ノ儀御回電ヲ請フ

追テ前記第四項ニ関シテハ田中丸ヲシテ書面ヲ以テ其意義ヲ更ニ明確ナラシメ置ク考ナリ

註一 大正十二年八月一日ヨリ浦潮ニ於テ開カレタル日露共同査定委員会ニ於ケル日本漁業家代表タル田中丸祐厚ノコトナリ

2 露国側代表者「アンドリアーノフ」ヲ指ス

三三三 十一月二十五日 伊集院外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

未納金額ノ年賦期間六年間ハ長キニ過グルニ
ヨリ契約期間ヲ三年トシテ先方ニ申入レ方訓
令ノ件

第五三八号

山口第四二号ニ関シ詮議ノ結果大体別電第五三九号ノ通り今後ノ交渉方針ヲ決定シ其ノ第一項ニ付組合ヲシテ審議セシメタル処組合ニ於テハ別電第五四〇号ノ通り決議セル旨答申アリタリ

然ルニ所謂未納金総額ニ付テハ(一)其ノ支払方法(二)改良網問題(三)長期契約ノ借区料ト十二年度分トノ比率如何ニ依リ組

ハ我方カ六年年賦等ノ条件ヲ提起セルハ組合ノ財政実情並ニ当業者ノ負担能力ヲ顧慮シ取極ニ基ク義務履行ノ確実ヲ期セムトスル誠意ニ出テタルモノニシテ過去ニ於ケル借区料等ノ未納者中ニハ既ニ事実上何等支払能力無キニ至レルモノアルモ此等ハ将来ノ漁業経営者ニ於テ補償スルコトトセル外組合ニ於テハ其ノ決議ヲ以テ厳格ナル規定ヲ設ケテ過去ニ於ケル未納金ノ徴収ニ努メ以テ来年四月末日迄ニ支払フ可キ二十五万円ノ調達ニ付違算無キヲ期シ又年賦金ノ支払ニ付テモ右同様厳格ナル規定ヲ設ケ漸ク総額二百七十五万円ノ交付ヲ容諾スルニ至リタル実情ナルヲ以テ之カ義務履行ノ為メニハ今回提案ノ条件ニ依ルノ外無キ旨並ニ如此事情ナルヲ以テ大正十三年度以降ノ借区料ヲ大正十二年度分ニ比シ増率スルニ於テハ到底之カ負担ニ堪エサル可キ旨ヲモ口頭ヲ以テ篤ト説明セラレ右「ア」ヘ伝達方可然申入レラレタシ

三三四 十一月二十五日 伊集院外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

漁業問題ニ関スル交渉方針指示ノ件

第五三九号 別電

合ヲシテ再考セシムル余地アルト共ニ從來ノ経緯ニ鑑ミ此際ノ措置トシテハ寧ロ快ク「ア」ノ申出額ヲ其ノ儘容諾スル態度ニ出ツル方得策ト認メラルルモ其ノ支払方法ニ付テハ組合側ノ金融実情並ニ当業者ノ負担能力ヲ顧慮シ将来ニ面倒ヲ貽ササル様取極置クノ要アル処此点ニ関スル組合決議ノ一部即三十四万円ヲ来年四月末日迄ニ交付ス可キ点ハ樂觀ニ過キ実行上危険アルニ付別電第五四一号中ノ第二ノ案ノ通り取極方極力交渉スルコト致度シ而シテ右案ノ如ク六箇年年賦トナス時ハ長期契約モ六箇年トナスヲ要ス可ク組合ニ於テモ当初亦之ヲ主張シ居タリト雖右ハ一面ニ於テ先例モ無ク又露国側ノ承認ヲ取付クルコトモ到底困難ト認メラルルト共ニ他面ニ於テハ契約期間長キニ過キ組合トシテモ却テ不安アルニ顧ミ年賦期間タル六年間ハ当然露国側ヲシテ我当業者ノ漁業経営ヲ大正十二年度ノ例ニ依リ認メシムルコトトシ此際締結ス可キ長期契約ハ三箇年ヲ以テ一期トシ之カ更新又ハ改訂ヲナシ得可キ旨ノ条件ヲ付シ以テ本件ノ解決ヲ計ルコト致度シ

付テハ貴官ハ「ブレ」ニ対シ別電第五四一号ノ趣旨ニ依リ覚書ヲ作成シ之ヲ手交セラルルト共ニ御見込如何ニ依リテ交渉方針綱領

一、露国側カ我当業者ニ対シ本年度ニ比シ不利ナラサル条件ヲ以テ少クトモ三箇年長期漁区租借ヲ認諾スルニテ於ハ日露共同委員会ニ於テ審議中ノ未納金総額ハ之ヲ最高二百七十五万円ノ範圍ニ於テ定メ其ノ支払方法ハ露領水産組合ノ最モ便宜トスル所ニ從ヒ協定スルニ努ムルコト右支払方法ニ付テハ組合ヲシテ予メ協議セシメ且将来所定ノ義務履行上支障ヲ生セサル為メ必要ト認メラルル措置ヲ講セシメ置クコト右ニ付必要アル場合ハ監督官庁ニ於テ組合ニ対シ命令ヲ発スルコト

二、長期契約ノ締結ハ未納金問題解決ニ伴フ事実上ノ便法ニシテ一般漁業ニ関スル調整問題即漁業ニ関スル協約問題ニ付テハ別ニ之カ商議ヲ為ス可キモノナル旨露国側ノ諒解ヲ取付クルコト而シテ場合ニ依リテハ長期契約締結ノ為メ何等日本側カ旧露国政府トノ条約ニ依リ獲得セル權利利益ニ変更ヲ来ス可キニ非サル旨留保スルコト

三、長期契約ノ条件ニ付テハ此際可成明確ニ決定スルニ努メ大体ニ於テ本年度借区契約条件ニ比シ不利ナラサルニ於テハ之ヲ容認スルコト尤モ右条件ハ将来日露間ニ漁業

六 極東露領ニ於ケル漁業問題 三三五

ニ関スル協約成立ノ上ハ其ノ条項ニ照シ必要ノ調整ヲ施ス可キモノナル旨露国側ノ諒解ヲ取付クルコト

四、長期契約ニ係ル漁区以外ノ既設及新規漁区ニ付テハ競売其ノ他ノ方法ニ依リ我当業者ニ貸下ク可キ旨露国側ノ諒解ヲ取付クルコト

五、千九百七年ノ漁業協約カ片務的ノモノナルト均シク將來商議セラル可キ漁業協約モ亦片務的ナルヘク從テ之カ商議ニ於テ我既得ノ漁業權ヲ維持確保スル為メニハ相當難關アル可キニ鑑ミ將來對露一般問題ニ関スル正式商議ノ機會ニ於テハ此点ニ付特ニ慎重ナル考慮ヲ加フルコト

三三五 十一月二十五日

伊集院外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

借区料等ニ関スル組合決議綱領送付ノ件

第五四〇号 別電

組合決議綱領

一、大正十一年以前ノ借区料未納金總額ハ之ヲ二百六十万円トス其ノ内(一)三十万円ハ協定成立ト同時ニ(二)三十四万円ハ大正十三年四月末ニ(三)九十六万円ハ大正十三年以降六個年間毎年十一月末日金十六万円宛支払フコト

五〇〇

二、条件(大体別電第五四一号中ノ第三ノ通り)

三、大正十年乃至十二年度未納借区料徴収及補填方法左ノ通定ム

第一 未納借区料ヲ一定ノ期日迄ニ納入セサルトキハ當該漁区ノ組合内規ニ依リ權利ヲ喪失セシム

第二 前項ニ依リ權利ヲ喪失シタル漁区ノ未納金ハ當該漁区ニ付組合ニ於テ取極ノ方法ニ依リ得タル金額ヲ以テ之ヲ補填ス但シ其金額カ未納額ヲ超過スルトキハ其超過額ヲ當該未納者ニ交付ス

第三 前項取極ノ方法ニ依リ得タル金額カ未納額ニ達セサルトキハ其不足額ヲ限度トシテ當該未納者ノ權利ニ屬スル他ノ漁区ニ對シ更ニ前各項ノ規定ヲ準用ス

第四 第二項又ハ第三項ノ規定ニ抛ルモ尚未納金額ニ達セサルトキハ其不足額ハ當該未納者ヲシテ賠償ノ責ニ任セシム

第五 第二項又ハ第三項ノ取極ノ方法及其時期ハ評議員會ニ諮リ組長之ヲ定ム

四、大正十三年以降借区料及連帶負擔金徴収方法左ノ通定ム

一月八日付「ブレオブラジエンスキー」ノ書面ノ内容ヲ考慮シ且漁業問題ニ関スル實際の方面ノ円満ナル解決ヲ期スル為メ日露共同委員會日本側代表委員ハ露国当局カ左記条件ヲ容諾スルニ於テハ該委員會ニ於テ審議ス可キ所謂未納金ノ總額ハ之ヲ日本貨幣金二百七十五万円ト定ムルコトニ同意スルノ意嚮ヲ有ス

記

一、金二百七十五万円ヲ以テ過去ニ於ケル一切ノ未納金問題ヲ解決スルコト

二、金二百七十五万円ノ支払ニ関シ百万円ハ本年五月東京ニ於テ「ヨッフエ」氏ニ交付済ナルニ付殘額ハ百七十五万円ナル処其ノ内(イ)三十万円ハ協定成立ト同時ニ交付ス但シ大正十二年西南区其ノ他ノ地方ニ於テ露国官吏カ不當ニ徴収シタル金額ハ右交付ス可キ金額ヨリ控除ス(ロ)二十五万円ハ大正十三年四月末日迄ニ交付ス(ハ)殘額百二十万円ハ大正十三年以降六個年間毎年十一月末日迄ニ金二十万円宛交付ス

三、右支払ヲ容易且確實ニスル為メ大正十二年度ノ例ニ依リ大正十三年以降六個年間ニ亘リ三個年ヲ一期トシ漁区

第一 大正十三年度以降ノ借区料ハ大正十二年度ノ例ニ準シ毎年之ヲ定ム

第二 大正十三年度以降ノ連帶負擔金ハ當該年度ノ借区料ニ按分シテ之ヲ定ム

第三 前二項ニ依リ定ムヘキ借区料及連帶負擔金ノ一部トシテ毎年一月末日迄ニ前年度徴収額ノ約半額ニ相當スル金額ヲ保証金トシテ納入セシム

第四 第一項及第二項ニ依リ定メタル借区料及連帶負擔金ヨリ前項ノ保証金ヲ控除シタル殘額ヲ一定ノ期日迄ニ完納セサルモノニ對シテハ大正十年乃至十二年度未納借区料徴収及補填方法ノ規定ヲ準用ス

第五 第一項及第二項ニ依リ定ムヘキ借区料及連帶負擔金ノ徴収ニ関スル細目ハ毎年出漁規程ニ於テ之ヲ定ム

三三六 十一月二十五日

伊集院外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

日露共同委員會ニ於テ審議スベキ所謂未納金

ノ總額ニ関スル件

第五四一号 別電

十一月一日付「アンドリヤノフ」ノ提案並ニ之ニ関スル十六 極東露領ニ於ケル漁業問題 三三六

五〇一

租借契約ヲ締結スルコト其ノ条件等ニ関スル細目ハ別ニ協議決定ス可キモ少クトモ左ノ点ニ付テハ露国側ニ於テ明白ナル諒解ヲ与フルコトヲ要ス

イ、長期契約ヲ為ス可キ漁区ニ付テハ組合ヨリノ申出ニ応スルコト

ロ、借区料ハ大正十二年度ノ標準ニ依ルコト

ハ、長期契約ニ係ル漁区以外ノ既設及新規漁区ニ付テハ競売其ノ他ノ方法ニ依リ我当業者ニ貸下ク可キコト

ニ、函館ニ露国領事官又ハ之ニ代ル可キ官吏ノ駐在スルニ至ル迄ハ大正十二年度ノ例ニ依リ査証事務官ヲ函館ニ駐在セシムルカ又ハ其ノ他ノ弁法ヲ設ケ日本当業者ノ出漁ニ支障ナカラシムルコト

ホ、漁夫旅行券、査証料及裏書料等ハ大正十二年度ノ通リニ定ムルコト

ヘ、関税、地方税、消費税、人頭税等何等ノ名目ヲ以テスルヲ問ハス一切漁場ニ於テ課税ヲ為ササルコト

ト、漁具及建物ノ様式ニ制限ヲ設ケサルコト

関スル手続ヲ講スル様適當露国当局ニ対シ御交渉相成度此段及照会候也

三三七 十二月十五日 農商務省水産局長ヨリ
永井通商局長宛

明年度ニ於ケル漁区開設手続キニ関シ至急露

国当局ト交渉ヲ進ムルヨウ要請ノ件

十二局第八三九号

大正十二年十二月十五日

農商務省水産局長

外務省通商局長殿

大正十三年度露領出漁ニ関スル漁区ノ開設出願ハ従来ノ例ニ依レハ既ニ其ノ期ヲ逸セムトスル所露国側ハ未タ何等之ニ関スル手続ヲ講セス尤モ彼我間ニハ未納借区料査定ニ関スル未解決問題ノ存スル次第アルモ右ハ素従来ニ於ケル漁区租借者ノ債務決済ニ関スル特種ノ事務的問題ナルヲ以テ之レカ為メ日露漁業協約ニ基ク一般邦人ニ依ル漁業權行使ノ一手続タル前記漁区開設ノ出願ヲ妨クヘキモノニアラスト思料セラレ候就テハ右漁区開設出願ニ関スル權利ヲ現状ノ儘放任スルトキハ差当リ明年度ニ於ケル本邦人ニ依ル漁業ノ發展ヲ阻害スルノミナラス将来ニ惡例ヲ貽スモノト認めラレ候条前記趣旨ニ依リ露国当局ニ於テ至急漁区開設ニ